

日本銀行増築第二期工事

日本銀行臨時建築部 技師長 工學博士 長野宇平治

所在地 東京市日本橋區本石町二丁目二番地(第一期新館東側)

敷地 東西23間、南北35間(805坪)

建物 間口(東西) 120尺

奥行(南北) 200尺

面積 建坪 530坪

延坪 4,608坪

階數 地上六階、地下四階

高さ 地上より塔屋扶壁まで 120尺1寸

地上より六階扶壁まで 100尺6寸

地下深さ 63尺

様式 伊太利復興式

用途 1階 東口廣間、事務室

中2階 女子用更衣室

2、3階 事務室

4、5階 厨房、食堂

6階 機械室

第1地階 行員用更衣室、食堂

第2、3地階 倉庫、電氣室、機械室

第4地階 蒸氣汽罐室、給水、給湯、冷凍、煖房、換氣裝置用機械室

基礎 高さ10尺の鐵筋「コンクリート」造潜函基礎を地下63尺の砂利層に達せしめ其の上に總體鐵筋「コンクリート」版地形を設く。

主體構造 鐵骨鐵筋「コンクリート」とす。

外部仕上 立面外装は全部石材にして岡山縣産北木石、茨城縣産小御影石及稻田石の三花崗石を主とし二階及三階の壁は神奈川縣産白丁場石を使

用す、陸屋根は敷瓦、中庭は花崗石を以て鋪裝す。

内部仕上 第1階 立關及廣間の床、腰羽目、腰長押、幅木及獨立柱柱脚等は研磨せる花崗石を用ひ鋪裝す。事務室及廊下の中木、腰羽目は大理石若くは「テラゾー」張、床は「リノリウム」又は「テラゾー」及人造研出し仕上、洗面所、便所、浴室は床、壁、天井共「タイル」張とし浴室天井は輕「クリート」張とす。

中2階 床「フローリング ブロック」腰に「タイル」を張る。

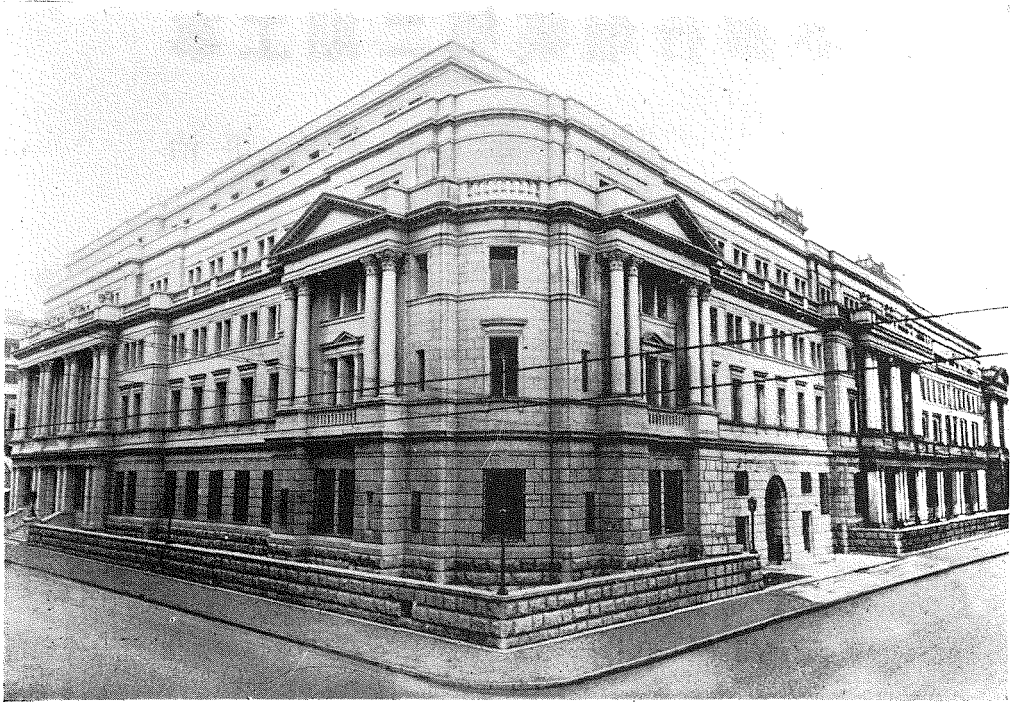
第2及第3階 廣間及各廊下の腰羽目及床輪廓に大理石を用ひ其中中央歩道に「リノリウム」を敷く。各事務室床は「リノリウム」敷、幅木に大理石を使用す。

第4及第5階 食堂の床は「チーク」材「フローリング ブロック」張、腰羽目及屏障には檜材を使用す。

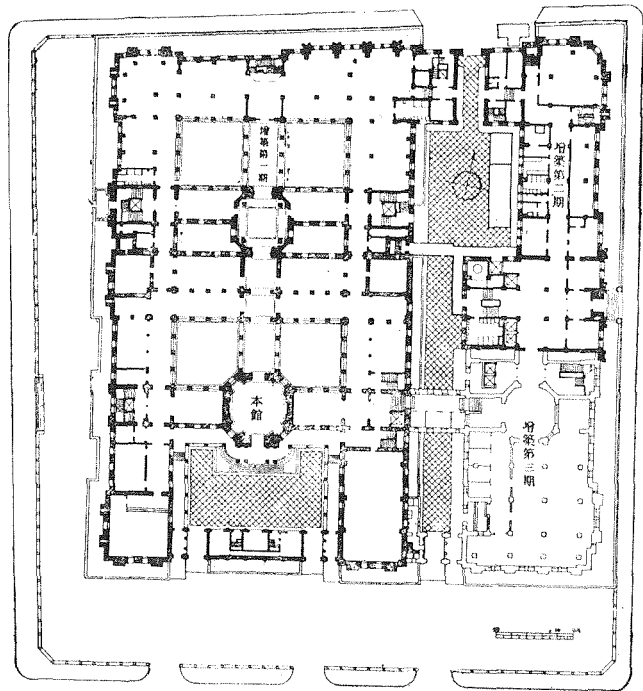
廣間及廊下は腰羽目、床輪廓共前記同様、厨房床は人造研出し仕上とし壁は「タイル」天井は輕「クリート」張とす。

第6階 機械室は床、腰共「タイル」張なり。

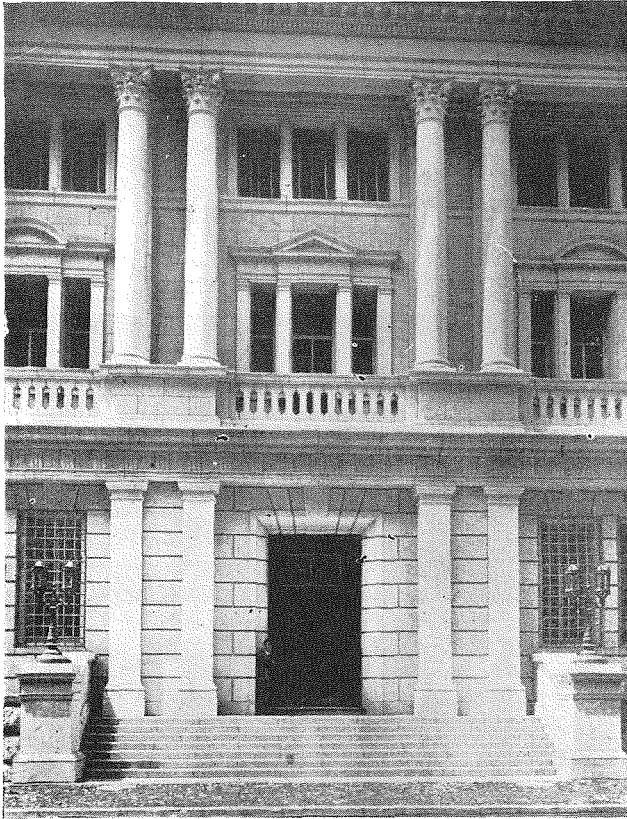
地階 更衣室、小使食堂、印刷室、電氣室、機械室、發電氣室其他の各室及廣間廊下等の床、腰、壁共「タイル」張なり。



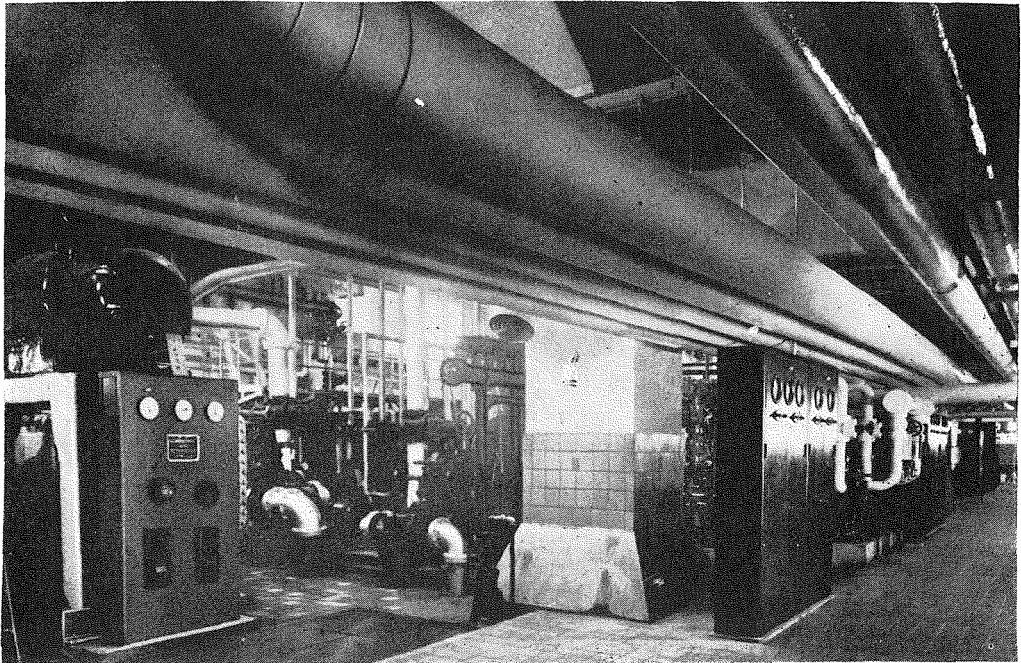
上・第二期増築工事により竣功した日本銀行新館全景。



下・日本銀行増築工事配置圖。



← 東 口 玄 關
地 窖 機 械 室
↓



各階段 護膜「タイル」及「リノリウム」敷にして蹴込、腰目は大理石なり。

各階壁 本邦固有の方法に依る石灰漆喰塗を施す。

建具 外部窓には鐵製硝子障子を箆め二重に電動捲込み防火鐵扉を装置す。

階段室其他内外各主要出入口には電動捲込み防火鐵扉を装置す、内部各出入口には一般に輕量鐵製唐戸を釣込む。

東側玄關出入口内扉は「ブロンズ」製にして同外扉は北出入口外扉及鐵柵門扉と共に鑄鐵製なり。

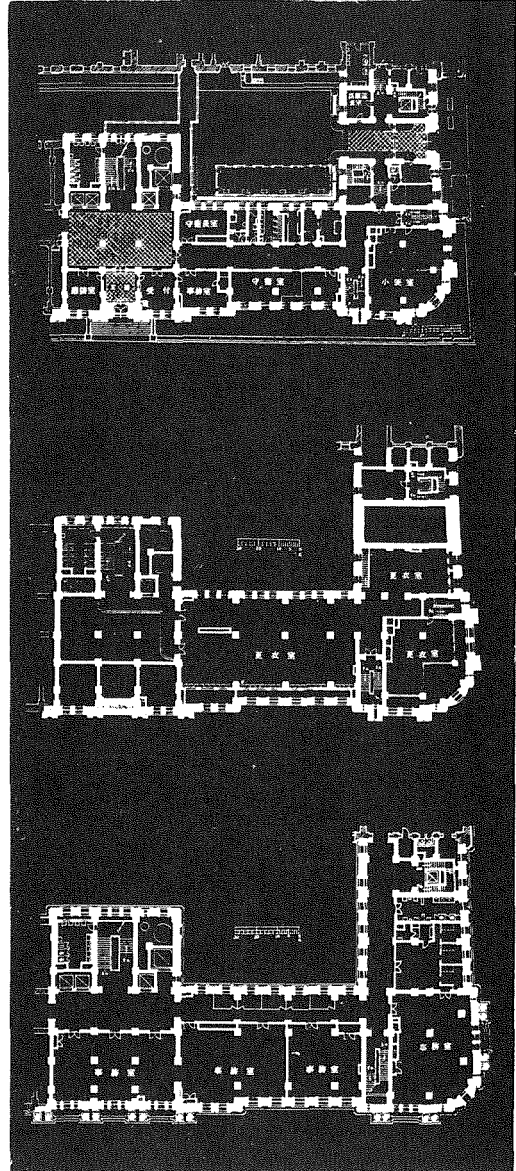
暖房設備 低壓真空式蒸氣暖房装置にして地窖に自動燃炭裝置付「タクマ」式汽罐を設け之より鐵管を以て各室の放熱器に送氣し放熱器には自動溫度調節裝置を具ふ。

換氣裝置 地窖に冷凍機を据付け別に空氣濾過機、空氣洗滌機、空氣加熱器等を設備し此等に依り金庫室、主要營業室等に夏期は冷風、冬期は溫風を供給し鑑定室、汽罐室、機械室、厨房、倉庫には空氣濾過機を経て給氣をなし各換氣裝置には自動溫度調節裝置を附す。厨房、便所、更衣室、汽罐室、電氣室、機械室等は扇風機により機械的排氣のみを爲す。

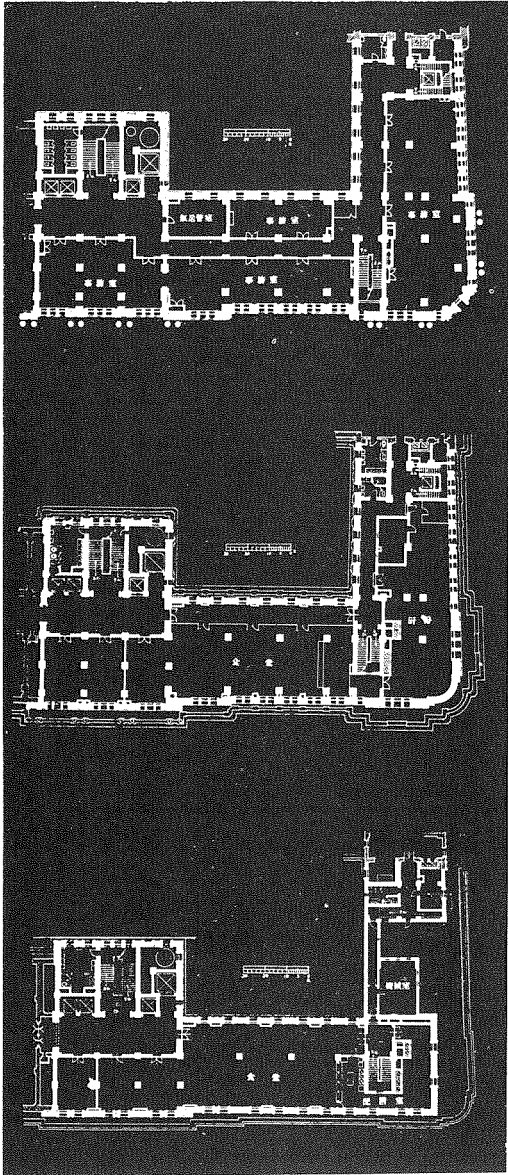
給水及給湯裝置 給水は厨房、配膳室及一部洗面器には市水道を引用し雜用には鑿井水を濾過して使用す、給湯は市水道及鑿井水の二系統に分ち蒸氣により加熱し厨房、配膳室及各洗面器に供給す、鑿井は2箇所に設け冷房及雜用に使用す、其の湧水量は一晝夜各1,000石なり。

排水設備 1階以上の各便所、厨房等の汚水

上から・一階平面圖。
中二階平圖。
二階平圖。



上から ● 三階平面圖。
 四階平面圖。
 五階平面圖。



は直接市下水道に放流し地階便所の汚水は「エジェクター」に依り又地階の雑用水は堅型排水唧筒により市下水道に放流す。

真空掃除装置 米國「スパンサータビン・クリナー」會社製真空唧筒及集塵槽を設け全館要所に挿込傘を装置す。

消火設備 全館要所に消火栓、消火器及火災報知機を設備す、消火栓には電氣押鈕を装置し機械室の消火唧筒を自動的に運轉し、又北側外には「サイヤミーズコンネクション」を設けて消防署唧筒を連結し得る様装置す、消火用水は市上水道及自家鑿井水を併用す。

空氣式書類輸送装置 米國「ランソム」會社空氣式を採用し3階に設けたる交換室に於て輸送先への集配連絡を掌る、輸送器は徑4吋の眞鍮管を用ふ。

塵芥焼却爐 地階中層に重油燃焼による塵芥焼却爐一基を設く。

廢棄紙幣燒却爐 地階中層に重油燃焼による廢棄紙幣燒却爐一基を設く

紙幣消毒装置 地階中層に「フォルマリン」瓦斯消毒装置一基を設く。

厨房設備 4階厨房に蒸氣飯炊釜、瓦斯飯炊釜、食器消毒機、洗米機、瓦斯料理器を具へ又電氣冷蔵庫、料理保温機、皿洗機等必要附帶設備をなす。

昇降機 乗用4臺貨物用1臺の外小型料理用5臺及書類用1臺を設備す。

中央機械監理設備 機械監督者が全館内諸機械の運轉狀態を集中監理をなし得る爲地階に中央監理室を設け右用諸設備をなす。

警火装置 特殊部分には空氣の膨脹を利用する警火配管をなし發火を自動的に

警報する装置を設く。

電気諸設備 變電室には東京電燈株式會社二變電所より地下専用二回線を引込み、變壓設備により動力、電燈用に夫々配電し尙「ディーゼル」機關1基及「ターボ」發電機2臺を設く。

電燈1,100個、挿込栓165個、豫備燈10個、電話50個、電氣時計60個、非常報知機、役員出勤退出席装置、呼出信號、巡邏表示装置等の諸設備をなす。

工事の施行 本工事の施工方法は下記の通り基礎工事、一般工事及直營工事の三種類に區分し施工せるものなるが全工事の施工總管理を合資會社清水組に委囑せり。

基礎工事 一式請負
 施工者 清水組

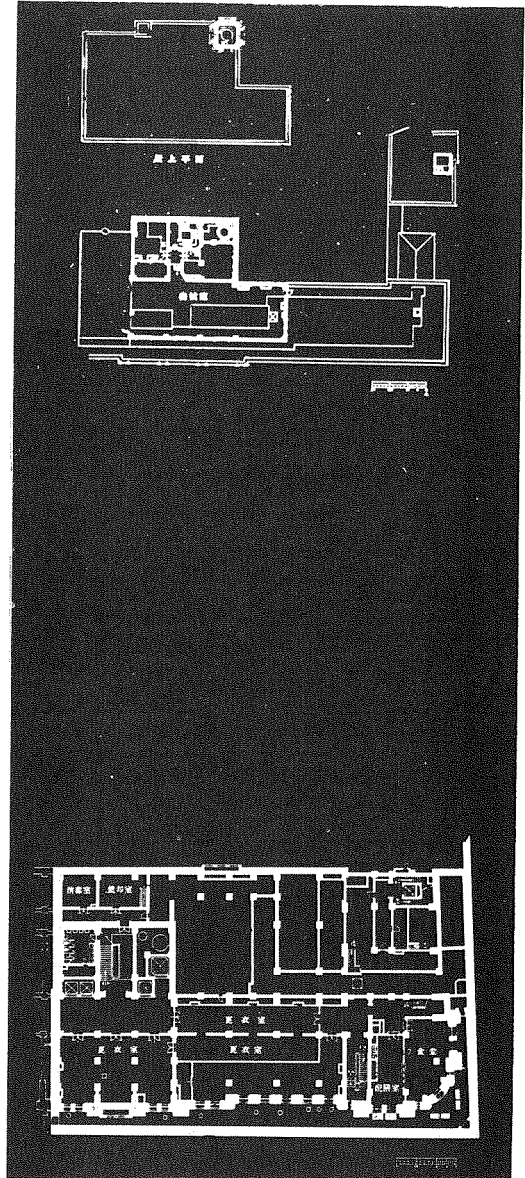
一般工事 實費算式請負
 施工者 同

直營工事 部分的工事を本行が直接専門業者に委囑施工せしめたるものにして、其主なるものは基礎鐵矢板供給、構造鐵工事、外裝石工事、金物工事の一部、機關及機械的裝置工事、電氣工事、衛生工事、家具等なり。

工事功程 昭和七年十月十四日 地鎮祭
同 七年十月十八日 起 工
同 九年六月 一 日 定礎式
同 十年五月 十 日 竣 工

設計者 日本銀行臨時建築部
技師長 工學博士 長野宇平治
技 師 坂東 義三
技 師 尾崎 久助

— 終 —



上から・六階及屋上平面圖。
第一階平面圖。